



## 中3・高1イングリッシュキャンプ

昨年まで菅平で実施していた「中3・高1イングリッシュキャンプ」は、今年度からなくなります。(中学2年生は、8月14日から3泊4日で実施します。)それに代わるものとして、アメリカの大学生を日本に招き、スピーキング漬けの5日間を過ごそうという企画を紹介します。日本の高校生5~6名に対して Harvard 大学や California 大学の現役大学生が1名つき、英語でディスカッションをしたりプレゼンテーションをするというものです。他校の生徒も参加します。英語の学習は勿論、世界を知るチャンスにもなると思います。

今回参加するプログラムは、2社の企画によるもので、期間は共通です。プログラム内容については各社のパンフレットを見てください。高1のフロアーに設置してあるラックに入れておきますので、自由に持って行ってください。グローバル教育部にも用意しておきます。

なお、申し込み締め切りは5月19日(金)となります。アメリカの大学生と英語でとことん語り合う絶好の機会です。英語の能力にかかわらず挑戦してみてください。詳細について知りたい場合はグローバル教育部を訪ねてください。

○期間 8月14日(月)~8月18日(金)

○プログラム

	東進 Global English Camp	I S A Empowerment Program
場 所	ナガセ西新宿ビル	YMCA アジア青少年センター
時 間	10時~17時	9時~14時50分
費 用	55,000円	50,000円
その他	英語能力別クラス	英検準2級程度の英語力が必要

## カナダ留学記 - 2 -

☆ 菅江 泰有

1月9日から3月19日までの70日間、私はカナダ短期留学に参加してきた。この留学に参加した目的は自らの英語力の向上と考えの視野を広げることであった。本レポートではカナダでのホストファミリーとの生活、学校生活、英語の勉強方法そして今後の目標について述べていきたいと思う。

この70日間、多くの方々に支えてもらっていたが、やはりホストファミリーの存在は欠かせなかった。ホストファミリーはいつも私を気にかけてくれた。たとえば、ホストマザーはいつも夜の9時頃になると疲れて寝てしまうのだが、カナダに初めて来た日、家に着いたのは夜の10時ごろであったにも関わらず、ホストマザーはその日のうちに家の隅々まで案内してくれて、私の拙い英語での質問にも真剣に答えてくれた。また、ホストファザーは日中は家事をして夜は仕事をしてとても忙しいにも関わらず、私が眼鏡を壊してしまったときは、次の日には修理屋さんに行って直してきてくれた。今思うと、多くのことで迷惑をかけてしまったと思う。

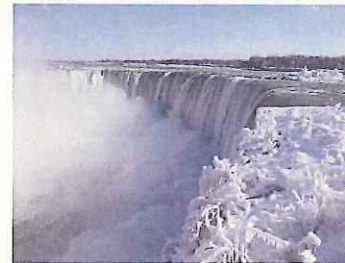
一方で良い思い出もある。それは私の誕生日パーティーだ。その日は多くの友達が家に来てくれてたくさんの人に祝ってもらった。また人生で初めて友達から誕生日プレゼントもらった。あまりの嬉しさに涙が出そうになってしまった。1年前の私にはこんな素晴らしい16歳の誕生日が待っているとは想像できなかっただろう。

また私は今まで友達作りに苦戦したことはなかったが、この留学で初めて「友達作りの難

しさ」を痛感した。学校の登校日初日、受講するクラスを決めて2限目の science から参加した。当然、私は先生の話を理解できる分けもなく、隣の子に先生が言っていることを質問した。そのとき、その生徒は本当に優しく教えてくれた。あたかも長い間付き合っていた友達のように接してくれた。そのため私はすぐに友達ができると思っていた。しかし、カナダでは「ホームルーム」という仕組みがなく授業ごとに人が入れ替わってしまい、またそれぞれのクラスで、すでに友達の輪ができていたため、友達を作ることに苦労した。それでも、日本に帰る時期が迫ってくると、クラスの人たちは「日本ってどんなところ?」と興味を持ってくれ、日本について、またカナダの好きなところについて話すことができた。最後の日には「元気でね」とたくさんの人に言ってもらい良い学校生活を送ることができた。

カナダで私が行っていた英語の勉強方法は主に二つある。一つ目は持って行った英語の単語帳を毎日少しずつ覚えることだ。具体的に言うと、学校へ行くバスの中でそのCDを聞き、家に帰ったら書いて、その覚えた単語が使える場面があれば使うという勉強方法である。その中でも一番効果的だったのは「使う」であった。実際に覚えた単語をすぐに使ってみると、話を通じたときの「達成感」により記憶の定着が早くなったと実感した。二つ目はテレビや映画を見ることだ。初めは映画を見ても何も聞き取れず、話の内容があまり理解できないことが多かったが、毎日いろいろなテレビや映画を見ることで、リスニング力を飛躍的に伸ばすことができた。これらの身につけた語彙力とリスニング力を維持するために毎日英文を読んだり、英語のスピーチを聞いたりしようと思っている。

私の今後の目標として身につけてきた英語力を生かして英検準1級を取得したいと考えている。また、70日間の学校の勉強のブランクを埋めることに全力を尽くしたい。この70日間は私の人生の中でかけがえのない日々になったと思う。



☆ 中村 聖

私は2017年1月から10週間カナダのオリリアに留学しました。

元々私は海外の映画や音楽が大好きで、将来外国の映画関係の仕事に就きたいと考えていました。しかし、私は今まで一度も海外に行ったことがなく「海外の文化」などについての知識が全くといっていいほどなかったのです。なので、このカナダ留学プログラムを見た時に、海外関係の仕事に就く時に必要不可欠である「英語力の向上」に加え、「海外の生活や文化」についても学び海外の映画の仕事に就くという将来の夢にもつながってくると考え、このカナダ留学のプログラムに参加することを決めました。

私がカナダで生活して一番感動したことは「みんなが親切で優しい」ということです。ドアを使いそうな人がいたら開けたまま待っていてくれる、信号がなくても渡ろうとしていたら車が止まってくれる、学校で歩いていたらTシャツをほめてくれるなどなど。

特に一番感動したのは、ホストマザーの友達に車に乗せてもらっているときにその友達がチャリティー運動している人たちを見つけてクラクションを鳴らし手を振っていたことです。私はこれを見たとき驚くとともに感動しました。僕は本などを読んで「外国の人はYES、NO

などを含め、自分の意見をはっきり言う」というイメージを持っていました。確かに物事ははっきり言いますが、その分日本人以上に人のことを気遣っている、親切にしているという印象を持ちました。

また、カナダの人たちは近所同士のつながりが深かったり、よく他人の家に遊びに行ったりなど「人と人とのつながりが深い」という印象を持ちました。私もホストマザーの友達の家に夜ごはんをよく食べに行ったりしました。

この二つが日本にはあまりない文化で私が「素晴らしい文化だな」と感じたカナダの文化です。

カナダ留学はとても楽しかったですが、やはり英語や文化の違いに苦労したり驚いたりしたことも多々ありました。

単語量などでももちろん苦労しましたが、僕が一番英語で苦労したのは「RとLの発音」でした。日本で勉強をしているときは自分の発音に意識がいておらず、RとLの発音がカナダでうまく発音することができず(ESLクラスでも最後まで練習していました)「行く前にもっと発音を練習しておけば」と反省しました。

また、「使っていない部屋はドアを開けておく」という習慣や「否定の疑問文」の答え方が日本と逆なので、答え方などに慣れるのにも苦労しました。元々映画を見るのが好きだったので僕にとっては嬉しいことだったのですが、カナダでは映画をよく見る習慣があり驚きました。

カナダでは、スノーモービルやスノーチュービングなどのカナダならではのアクティビティやアメリカへの旅行など様々な楽しい思い出ができました。中でも私の中で特に心に残っているのは「プーティン」と「ナイアガラの滝」です。

プーティンはカナダ(ケベック)の伝統的な食べ物です。カナダに行ってホストマザーがすぐに紹介してくれたのですが、私はものすごく気に入り少なくとも週に1回は食べていました。

また、一月の終わりにナイアガラの滝に連れて行ってもらいました。その日の天気はあまり良くなかったのですが、やはり写真で見るとスケールが大きく圧倒されました。

私は今回の留学で様々なことを学び、素晴らしい経験をすることができました。このような機会を与えてくださった両親、海城学園、diBecの皆様、本当にありがとうございました。

#### ☆ 菊池 宙

1/9 から 3/19 までの 10 週間、私はカナダ 3 ヶ月留学プログラムに参加しました。このプログラムではホームステイや現地校授業の履修は勿論のこと、事前英語力強化レッスン、現地小学校での英語によるプレゼンテーションなどにより、充実した異文化体験や語学学習をすることができました。まず初めに、この留学を支えていただいたグローバル教育部の春田先生や渡辺先生、その他海城の先生方、留学サポート会社の diBec や現地団体 MLI を始めとする多くの方に感謝の意を述べたいと思います。ありがとうございました。

カナダと聞いてどのようなイメージがあるのでしょうか。当初の自分には、「自然豊かで平和的な国?」といったありふれた印象しかありませんでした。しかしこのカナダ留学で、日本では味わうことの出来ない貴重な異文化体験を通して、多くのことを学び、視野を広げることができたと考えています。ここではその幾つかを紹介したいと思います。



初日、12 時間のフライトを終えてカナダのトロントに到着した時、まず驚いたのは気温です。冬の最高気温がマイナスのカナダは雨ではなく雪が降る毎日で、 $-20^{\circ}\text{C}$  という極寒の日もありました。学校が雪や路面の凍結により休校となる Snow Day も、国土の多くが北極圏内ならはだと感じました。また自然豊かなカナダでは、道路を横断する野生の七面鳥を目にし、ホストファミリー宅の敷地内(林)でカナダの名産物メープルシロップを木から採取するという貴重な経験もしました。

学校も日本とは大きく異なります。先生ではなく生徒が教室を移動することは知っている人も多いと思います。また、平日 5 日間の 4 時間授業で、①英語②歴史(先住民について)③美術④歴史(近代史) を履修していました。4 科目を毎日学習することで同じクラスメイトとのコミュニケーションが増え、友達を作りやすかったのが良かったです。

また、ホストファミリーがキリスト教を信仰していたため、日本人とは異なる宗教観を肌で感じることもできました。日曜日には教会に二度行き、夜は団らんの場として食事会が開かれます。クリスチャンが多いカナダでは教会が至る所に点在していて、その地域や近所の人々が集う教会はコミュニケーションの場としても重要な役割を果たしていると感じました。夜の食事会では、学生で集まってカナダの伝統的な音楽を合唱し、国際情勢(アメリカとの関係など)について議論するなど、同年代の学生と親しい関係を築くことができました。

今回の留学を通して、語学力の向上の他にも、異文化を身をもって体験することで多面的なものの見方の習得、自分の意思を言葉で伝えるコミュニケーション能力の向上など、多くの面で成長することができたと感じています。そして毎日が新鮮で、率直にとっても楽しかったです。この文章を通して、留学の良さや楽しさを感じていただけたら幸いです。最後まで読んでくれた皆さん、ありがとうございました。そしてこの充実した留学を支えていただいた方々、本当にありがとうございました。

(前号に掲載した佐藤君の名前に誤りがありました。正しくは「佐藤有造」君です。訂正し、お詫び致します。なお、ホームページ版は訂正されています。)

#### Asia Innovation Challenge で 1 位獲得

Asia Innovation Challenge(ジュニア・アチーブメント日本・シンガポール、Fedex 主催)にて 1 位を獲得しました。これは、シンガポールの高校生と日本の高校生の合計 4 人でチームとなり、アジアにおける社会問題を解決するビジネスモデルを立案して競うコンテストです。

私たちは、食中毒の発生と食の安全への懸念が社会問題とされているベトナムで、安心して食べられる有機野菜の栽培と販売ネットワークを構築するビジネスを提案しました。

約 5 ヶ月間もの異なる国の生徒との共同プロジェクトでは、価値観の違いに直面し、意見が対立することもしばしばありましたが、それを乗り越えて、最終的に 1 つのものを作れたということには、達成感を感じるとともに、良い経験となりました。

また、1 位受賞の副賞として、ベトナムへのスタディツアーを獲得しました。



ホストファミリーとの夕食

高校 2 年 岡田 博嵩



最終審査会での日本側参加者の集合写真